

田端文士村記念館 芥川龍之介 生誕130年記念展

# 作家・芥川龍之介と 共に歩んだ家族の物語

よく悩み、よく笑い、よくしゃべる人でした。

2022年

5月21日[土]~9月19日[月・祝]

※休館日を除く

会場：田端文士村記念館

【JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分】

開館時間：10:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日の時は火・水曜)・祝日の翌日(土・日の時は翌火曜)

【主催】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171

【共催】東京都北区

【協力】芥川歌子・中野苑子



入場無料

写真：芥川龍之介

©「近代日本人の肖像」(国立国会図書館)

# 作家・芥川龍之介と 共に歩んだ家族の物語

書齋に座り、眼光鋭く、真っすぐにあなたを見つめている作家・芥川龍之介。

私生活では、よく悩み、よく笑い、よくしゃべる人でした。

妻、息子、姪…家族が紡いだ物語をたどって、  
華やかな作家人生の奥にひそむ素顔の“芥川龍之介”に迫ります。

## ～妻・文が紡ぐ物語～

### ① 芥川龍之介が結婚前に 文に宛てた恋文(個人蔵)

「主人の手紙も創作の一部であったかも知れない」と語る文。

お互いの手紙は棺の中に入れると約束していたが、この手紙は手篋の奥深くにしまわれていた。

### ② 芥川龍之介 『羅生門』(阿蘭陀書房)

大正6年に刊行された龍之介にとって初めての短篇集。親友に婚約者の名を尋ねられた文は、『羅生門』を一冊、そっと差し出したという。



④



③



②



⑤

### ③ 新発見資料 芥川龍之介愛用の ネクタイ

蝶の刺繍が施された布地で仕立てられたネクタイ。文の手製で、龍之介が晩年まで愛用していた。

### ④ 芥川文述・中野妙子記 『追想 芥川龍之介』 (筑摩書房)

文が語る龍之介との思い出の数々が綴られている。装幀には愛用のネクタイが使われた。

### ⑤ 芥川龍之介 『上海遊記』原稿

大正10年、新聞社の海外視察員として中国に派遣された時の紀行文。ネクタイの布地は、龍之介がこの旅行中に買い求めたもの。

同時開催

常設展示スペース 特別展

「河童忌記念帖2022 in 田端 詩人・吉増剛造 芥川龍之介への共感」

主催・問合せ

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館



〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>

@bunshimura